

モデル駆動で開発しよう —実適用における課題と先端技術

野田夏子^{†1}

細合晋太郎^{†2}

ソフトウェア開発全体をモデルを中心にして進めるモデル駆動開発の考え方が登場してから久しいが、実際の開発において十分に実践されているとは必ずしも言えない。そこで、モデル駆動開発に興味を持つ技術者・研究者が集い、実適用に向けて議論するワークショップを企画した。本稿では、ワークショップの狙いや討論テーマについて述べる。

Let's Develop Your Software in Model-Driven Approaches — Issues and Possible Technologies on Model-Driven Development

NATSUKO NODA^{†1} SHINTARO HOSOAI^{†2}

It has been a long time since the concept of model-driven development (MDD) appeared. However, it is not enough practiced in real development projects. We organize a workshop to bring together researchers and engineers who are interested in MDD and to discuss issues and potential technologies for the real application of MDD. In this paper, we describe the goal and the contents of the workshop.

1. ワークショップのねらい

モデル駆動開発は、ソフトウェア開発全体をモデルを中心にして進める開発、あるいはそうした開発スタイルを指す。この考え方のひとつのベースである OMG の MDA(Model Driven Architecture)は 2001 年に発表されており、既に 10 年以上が経っている。モデル駆動という言葉を目にすることも多くなっており、様々な研究もなされている。しかしその一方で、モデル駆動開発が実際の開発において十分に実践されているとは必ずしも言えない。モデル駆動開発を行うための様々な道具立ては整ってきているものの、具体的にどのように適用すべきか悩んでいる技術者も多いと思われる。そこで、広くモデル駆動開発に興味を持つ技術者・研究者が集い、モデル駆動開発の実適用における課題を明らかにし、それらの課題を解決するためにどのような技術が必要であるかを議論するためのワークショップを企画した。開発現場における事例紹介や実際に直面した問題の紹介、また検討途中の新規技術の紹介も含め、モデル駆動開発の適用に関するテーマを広く議論し、分野の今後の方向性を明らかにしたいと考える。

2. 討論内容

本ワークショップでは、モデル駆動開発の研究と実践に関するポジションペーパーを募集した。また、本テーマに関心を持つ研究者、技術に広く集まってもらい議論をする

ために、参加にあたってポジションペーパーの提出は必須とはしていないが、ポジションペーパーを提出しない参加希望者にもどのようなテーマに興味があるか、どのようなことを議論したいかをあらかじめ表明してもらった。それらのテーマは以下の通りである。

- モデルベーステスト：モデルベーステストの手法および既存プロセスへの適用手法について
- 定義・生成・検証：要求定義、プロトタイプ生成、モデルの検証の観点からみたモデル駆動の課題
- 不確かさを包容するモデル駆動開発機構：モデル駆動における Uncertainty
- Eclipse Modeling Project による研究事例：Eclipse Modeling Framework(EMF)をモデル駆動技術の基盤として利用する研究について
- UML を活用したモデル駆動開発の実践事例

参加者は、産・学の両サイドから予定されている。上記のテーマを中心に、モデル駆動の実適用に関して活発な議論が行われると期待される。

3. 期待される成果と今後

本ワークショップでは、ポジションペーパー・ポジションステートメントに基づいた議論を行い、そこからモデル駆動開発の課題を明らかにし、課題解決のために望まれる技術の方向性を見出したい。

本ワークショップが、今後のモデル駆動開発の発展に向けた一助となることを期待する。

^{†1} 芝浦工業大学
Shibaura Institute of Technology

^{†2} 九州大学
Kyushu University